

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700058		
法人名	株式会社ケアトピック		
事業所名	グループホームきりん		
所在地	高山市新宮町791-1		
自己評価作成日	令和3年12月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192700058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂く為に、行事や行事食を大事にしている。
認知症があっても安心・安全に過ごして頂けるように、職員の声掛けやケアに気を付けて対応している。
リビングルームからの景色が良く、北アルプス山脈が一望できる。
専門の調理師がいる為、料理が美味しい。(地元の味噌やお米を利用している。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の経営理念と事業所理念に沿った支援が行えるよう、職員個々に理念のカードを携帯し、常に意識しながら支援に努めている。現在はコロナ禍にある為、運営推進会議を書面報告としているが、今までは隔月に開催し、ほとんどの家族が参加していた。終了後には食事をしたり、個別相談に応じるなど、利用者と家族、職員の交流の場となっていた為、対面による運営推進会議開催が待たれている。専属の調理師や夜勤専属の配置により、職員がケアに専念できる環境を作ることで、統一した支援の提供に努めている。また、独自のキャリアアップ制度を整備し、介護力の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	きりん経営理念「お客様と全従業員の幸福を追求すると同時に社会の進歩発展に貢献します」又、グループホームきりん理念「ゆっくりやさしく自然な笑顔」を朝の申し送りの時に共有して、日々のケアに努めている。	法人経営理念と事業所理念を事務所に掲げ、毎日、申し送り時に確認している。各自が行動理念も含めた諸理念を名札カードに入れ、常に確認できるようにしている。カードは介護の妨げにならないよう携帯し、職員は「ゆっくりやさしく笑顔」で利用者者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内会の行事に参加している。地元の中学生の職場体験受け入れを実施している。	コロナ禍にある為、例年参加していた地域行事や保育園、小中学校との交流が中止となっている。現在は、面会や来訪者の受け入れ制限も行っているが、収束後には、今までのような交流を再開し、地域とのつながりを推進していく姿勢にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献(地域の介護職員)や弊社職員の法定研修として7月23日に認知症医療疾患センターと共催にて外部講師オンライン研修を開催致しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面での運営推進会議の開催ではあるが、あらかじめ意見を頂き、サービスに反映させている。	今までは、ほとんどの家族が参加し、時には警察関係者の参加を得るなど、活発な意見交換を行っていた。今年度は感染拡大防止の為、書面開催とし、事前に家族から意見を聞きながら、ホームの行事や活動状況の報告、利用者の写真等を掲載し、家族や関係者に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告や事故報告等をきちんと行い助言や指導を受けている。	行政担当者の異動が少なく、日々、相談しながら助言を得ている。コロナ情報や介護保険の改正資料等は法人本部が一括して管理し、本部から情報を得ている。市主催の会議や研修等はリモートで開催され、参加しながら運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	弊社として年に2回、グループホームとしては3ヶ月に1回、法定研修を実施して、身体拘束への共通理解を深め、日々のケアに活かしている。弊社の身体拘束適正化のための指針を理解してスピーチロックなども含め拘束しないケアの提供をしている。	虐待防止委員会を定期に開催し、身体拘束適正化の指針整備や虐待防止対策について学んでいる。職員は、自己点検シートにて自己チェックも行っている。法人主催で、学識者と医師による人権擁護、虐待防止の講演会等も開催している。	ヒヤリハットの用紙が用意されているが、申し送りノートに注意事項として記載し共有している。出来る限り、些細な事でもヒヤリハット用紙に記入し、その内容を職員間で共有しながら原因を探り、対策に繋がられることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社の虐待防止委員会による法定研修の実施、参加にて虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修の実施にて共通理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分に説明を行い、理解を得ている。今のところトラブルなどはなし。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて書面での運営推進会議の開催ではあるが、あらかじめ意見を頂き、参考にさせて頂いている。	毎月「きりんニュース」を家族に送付している。面会はオンラインや玄関先での短時間面会を行っている。面会時や面会終了後に、家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。また、契約書類には、介護保険改正点や看取りに関する説明を新たに盛り込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	細かいことまで職員同士で常に相談して決めるようにしている。その都度意見を取り入れて実践している。	職員は、勤続年数の長短に関係なく、自由に意見や要望を言える環境にある。管理者は、「職員の笑顔が利用者の笑顔に繋がる」と捉え、働き易い職場環境作りに努めている。専属の夜勤職員を配置し、会議は夜勤者も出席できる時間帯で行うなど、常に情報共有をしている。法人独自の職員育成体制で資格取得を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように現場の声を大事にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとして、キャリアパス制度を導入しています。又、年に2回の人事評価フィードバック時に個人目標を立てています。可能な範囲で研修へ参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に高山市グループホーム協議会の会議への参加にて意見交換をし交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に本人様の思いを傾聴し、安心、安全に暮らして頂けるように努めている。本人様との会話の中から本心を見極めケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時面談の際に、ご家族様の思いを充分に傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学後、入居申し込みされた際に、その方が必要としているサービスは何なのかを見極め、他のサービス利用も視野に入れて入居判定委員会にて検討されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を有意におかず利用者様を中心に生活している。日頃から家族のような安心できる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではありますが、電話、オンライン面会、手紙などのやり取りにてご家族様との関係を大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会や外出も禁止になり、今までどりの関係を継続することが難しい状況にありますが、感染症対策も少しずつ緩和してきたため、面会の機会を増やしていこうと思います。	今までは、入居前に属していたサークル仲間や孫の来訪、一時外泊で家族と馴染みの場所に出かけていた。今は、外出も自粛しており、馴染みの人や場所との関係継続の支援が難しく、家族同行の受診時のみ、利用者が家族に会える機会となっている。収束後には、再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士での会話が多いですが、誤解などで信頼関係が壊れてしまわないように、職員が間に入って支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の新規受け入れ先より問い合わせがあった場合など、情報提供を行いその方が安心して過ごして頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人その方にあった過ごし方の支援を行っている。認知症であっても、その方の思いをその都度、確認している。	入居時に、利用者の生活歴や暮らし方を、本人や家族から聞き取っている。毎月の職員会議では、個別カンファレンスを行い、利用者の思いや希望についての情報を共有している。利用者や家族が何でも話せるよう、信頼関係の構築に努め、本人本位のケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、本人様はもちろん、ご家族様にどんな些細なことでも情報提供して頂きケアに活かしている。その方のことを十分に理解して尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録を基に、日々の過ごし方を把握している。自立支援を念頭に置いてケアを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等によく話し合い、本人様の意向を大事にしながらケアプランを作成している。	各職員が、1～3名の利用者を担当し、看護師を含めた多職種の意見を踏まえながら、毎月モニタリングを行っている。介護計画の進捗状況を検証し、半年毎に見直しを行っている。利用者の入退院後には、状態を見ながら随時、計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々の申し送りの中でPDCAを繰り返しながらプラン変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ではあったが、「桜が見たい。」と利用者様の思いを叶える為、急きょ予定にない外出を実施した。		

岐阜県 グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が閉ざされており、来年度からは少しずつ地域資源を活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中6名の方は、きりん協力医の往診を受けられています。3名の方は外部のかかりつけ医へ受診されています。医療連携体制にて情報提供をして頂いています。受診はご家族様に対応して頂いています。	従前のかかりつけ医への受診希望もあり、家族同行で受診している。日頃の健康状態や医療情報提供書類を家族に渡し、受診結果を共有している。同法人の訪問看護ステーションとは、24時間の緊急支援体制があり、利用者と家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームときりん訪問看護ステーションと契約しており24時間緊急支援体制が整備されています。介護職は、日々の情報や気づき等、事業所内の看護師に相談をして対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された場合は、コロナ禍で面会できない為、退院調整課の担当者の方に電話にて連絡、情報提供をお願いしている。密に連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人様ご家族様の意向を確認している。体調に変化があった場合もその都度、確認を行っている。令和3年10月にグループホーム初めての看取りをさせて頂きました。	入居時に緊急時対応や延命措置、看取りについて、利用者や家族の意向を聞き、状態変化があった際は、その都度、再確認を行っている。昨年、万全の対策を講じた上で、家族と共に、事業所での初めての看取りを行っている。職員は経験したことを次に活かせるよう、更に学びを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和3年10月に消防職員の方に出向して頂き、救命講習(心肺蘇生法・AEDの使用方法について)を受講しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。(夜間帯の想定)きりんとして地域との協力体制を築いている。非常食や非常時の物品購入等、少しずつ進めている。BCP計画作成途中であり早急に実施予定。	年2回、避難訓練を実施している。課題であった夜間想定での訓練も、隣接の法人施設と共にシミュレーションをしながら実施している。防災用品の購入や非常食の確保など、ホーム内での完備を進めている。	夜間想定を含めた避難訓練を実施している。近年は想定外の災害が起こることも多い為、当日勤務の職員が、どんな状況であっても、迅速に行動できるよう、実践力の強化に繋がる訓練にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際には「トイレへいきましょう。」などとは言わず、耳元でこっそりとお誘いしたり、「用事があるので一緒にきて頂けますでしょうか。」など、声掛けに配慮している。利用者様の言葉を否定しないように心掛けている。	利用者の権利擁護についての研修会を、法人主催で実施している。排泄支援時や職員間で利用者の排泄情報を共有する際に、「便・尿」などの直接的な表現を控え、別の言葉に置き換えるよう心がけている。また、薬の包みを廃棄する際にも人の目に触れないよう考慮するなど、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の気持ちを伝えやすいような環境作りや、自己決定しやすいよう、選択できるように簡潔に質問するなど工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩へ行きたい。」「外へ行きたい。」など希望があれば、可能な限り沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で馴染みの理美容院へは行くことができませんでしたが、入浴時の着替えや起床時に着る衣類などなるべく本人様に選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調に合わせてお粥を提供したり、誕生日には本人様の食べたい物を提供している。食事の味付けや野菜の皮むきなど職員と共に食事の準備を行っている。又、毎食後お皿拭きを利用者様がされている。	食材は宅配サービスや地元スーパーを利用している。米や調味料も地元で調達し、事業所で育てた野菜も活用しながら、調理専属の職員が手作りしている。利用者もできる範囲で準備に関わっている。職員も同じ物を食し、誕生会や行事食、利用者の希望メニューも取り入れながら、食べる楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週日曜日の朝はパンを提供している。その方にあった食べる量、水分量を把握して提供している。トロミの必要な方の副食は柔らかく刻みにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自己や介助にて口腔ケアを実施している。夜間帯は入れ歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯など、その日の排尿状態をみながら、失禁されることのないように、一人一人トイレ誘導の時間を決めて対応している。車椅子の方であっても、オムツにするのではなく、出来る限りトイレにて排泄して頂いています。	各居室にトイレがあり、個々の排泄パターンに合わせて声掛けをしている。排泄介助の必要のない人でも、排泄後の後始末を確認し、常に清潔保持に努めている。排泄用品は利用者が居室で管理しているが、難しい人は事業所で預かっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便コントロールを行っている。漢方薬(せんな茶)や果物、繊維のある食事をして頂き、自然排便を促すようにしている。便座に長く腰掛けて頂き、又、運動への声掛けも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日は、ある程度決めさせて頂いておりますが、本人様が入りたくない場合は、翌日に見合わせるなど臨機応変に対応している。	入浴は、利用者とゆっくりとコミュニケーションが図れるよう、1時間の入浴タイムで支援している。跨ぎが困難な人には福祉用具の利用を検討したが、本人の不安が大きい為、シャワー浴で対応している。現在、他の支援方法も検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やして、夜間帯に安眠できるように努めている。眠剤服用時間もそれぞれに沿った時間に提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の変化など記録に残し、主治医に定期的に相談をしている。飲み忘れ、誤薬のないように名前の確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を目標として、きりんジラ制度を利用している。(例えば、お皿拭きをして頂いたらシール1枚貼る。シールが貯まったら、好きな景品と交換する。)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出が禁止となり、病院受診のみ外出できました。散歩希望があれば、対応しました。	ホーム周辺には田畑も多く、山の景色を眺めながら散歩に出かけるなど、利用者の気分転換を図っている。法人運営の保育園も近くにあり、新型コロナウイルス収束後には、子どもたちとの交流や近くの神社や喫茶店等への外出など、今までの支援再開を予定している。	

岐阜県 グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名中2名の方がお金を所持していらっしゃいます。なかなか使う機会はありませんが、お金があることで安心されています。以前は買い物支払いを本人様にしていたておりました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から希望があれば、電話を取り次いでいる。書くことができる方は、お手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングルームからは、北アルプス山脈が一望でき、又、周辺は田んぼが多く田植えや稲刈りなど季節を感じて頂いている。掲示物などその季節にあったものになっている。	事業所は幹線道路から少し入った高台に位置し、リビングの窓からは、アルプスの山々を眺めることができ、季節の移り変わりを感じることができる。ホームは全館バリアフリーとなっており、リビングの延長線上には畳の部屋もある。加湿器を設置して空調管理に努め、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席や和室(畳)、ソファなど、それぞれに好きな場所で過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある物や大事にしている物(写真やお守りなど)を持参して頂いている。	各居室には、ベッド、洗面台、トイレ、布団等も収納できるクローゼット等が備えつけられており、個々に、テレビや衣装ケース、小物や日用品を持ち込んでいる。日めくりと飛騨の風景写真のカレンダーは、ホームが用意し、利用者の認知機能や心象への配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる場所に手すりを設置して、安全確保に努めている。又、その方にあった福祉用具の利用をしている。(実費)		